森や川の芸術家（とちぎの自然からつくる）

時　期	いつでも
時　間	４時間
場　所	林，川原，図工室

○身近な雑木林や草むら，川原などに遊びに行き，工作に使えそうな材料を見つける。
○自然の物の形・特徴・材質・手ざわりなどを感じたり生かしたりしながら作品を作る。

ねらい

親しむ
・自然の素材を使って表現することにより，自然に親しむことの楽しさや自然素材の心地よさを味わおうとする態度を育てる。
・自然に対する見方やとらえ方についての感性を育てる。

活動展開例

第５学年　図画工作「森や川の芸術家」

準備物	・材料（自然物［落ち葉，小枝，小石など］，自然物以外［ひも，毛糸，目玉のパーツなど適宜］） ・道具（のこぎり，カッター，はさみ，接着剤，絵の具，油性ペンなど）		
展開	時　間	活　動　内　容	留　意　点
	１時間	○雑木林や川原などの身近な自然の中で，足元に落ちている落ち葉，小枝，小石などの材料を見つける。	・素材の入手のために近隣の雑木林などに出かける際には，所有者の許可を得る。分からない場合は，市役所，町役場，地元の森林組合などに相談する。 ・安全に留意する。 ・安易に草花を抜いたり生木を折ったりしないようにさせる。
	１時間	○拾った材料を組み合わせたり，他の材料を加えてイメージを広げたりして，自分なりに作品のアイディアや必要な材料・道具を考える。	・素材からのイメージ化では，そのものあるがままの形から見立てを行うようにさせる。まずテーマを決め，それに合わせて材料を集める展開も考えられる。 ・活動のアイディアの広がりによって材料や道具を準備する。
	２時間	○自分のイメージを作品に表す。 ※活用ガイドに作品例	・出来上がった作品の展示の仕方についても工夫するとよい。（自然の中にディスプレイして楽しむ，公民館など校外で発表するなど） ・道具の使い方に留意する。

高学年

活用ガイド

○作品事例集

人形，伝言ボード（小枝，木の実を生かして）

飾り物，いす（小枝，木材を使って）

ストーンアート（石の形を生かして）

高学年

○ワンポイントアドバイス

＜道具について＞

・道具選びは，使いやすさ（大きさ・重さ）と機能性で選ぶ。
・道具の扱いに関しては，特に安全面に留意する。
・絵の具は，アクリル絵の具がおすすめ。
・接着剤は，木工用以外にも瞬間接着剤があるとよい。ホットボンド（グルーガン）も便利。

＜活動の場について＞

・図画工作の授業や総合的な学習の時間の一環としての活動以外に，次のような場での実践も可能である。

→自然の家などを利用した校外学習や宿泊学習での活動

例：「県民の森」には，森を歩いて集めた材料を使ってクラフト作成をするプログラム，「なす高原自然の家」には，木の実を使ってクラフト作成をするプログラムなどがある。

→ボランティアティーチャーを招いての活動

例：大工さんの中には，ボランティアとしてウッドクラフトなどを教える活動等をしている方もいる。地域の方に目を向けることも大切である。

→公的施設の活用～休日を利用しての活動の励行～

例：宇都宮市の「とびやま歴史体験館」では，夏休みに鬼怒川の川原の石を使ってのストーンペインティングの体験講座が開催されている。

※とびやま歴史体験館　NPO法人飛山城跡愛護会　TEL028－667－9400

→企業などの活動を活用

企業の中には，「自然の素材に触れ，子ども達が自ら感じ，考える」というコンセプトの下，「海や山などの自然のフィールドから持ってきた素材」を積んで小学校などに対する出前型の環境プログラムを行っているところもある。自然の仕組みや環境保全の大切さを伝えるレクチャーと自然の素材を使ったクラフトなどの組み合わせで構成されている体験型の講座を探してみることも大切である。

○活動紹介「宇都宮美術館主催の造形遊び」

活動の様子（森をきれいにしながら材料を集めています。）

宇都宮美術館にはうつのみや文化の森が併設されており，四季折々に移り変わる豊かな自然環境に触れることができるワークショップや自然観察会などが開かれている。

写真は，ここ数年実施されている自然観察会「親と子の造形遊び」の様子である。森の材料を利用してリース作りを行っているが，その活動が森の魅力に気付き，森をきれいにする結果に結びついた例も報告されている。

出来上がった作品

高学年

本プログラムの作成において参考とした文献やWebサイト

○「環境教育指導資料」〔小学校編〕国立教育政策研究所教育課程研究センター（2007）

○宇都宮美術館　http://u-moa.jp/park/